

盆の雨

松岡隆子

なかなかにけふの終らぬ遠蛙
何やかやあつて青葉の夜を更かす
些事一つ一つ朝より蝉鳴いて
立ち止まるとき俄なる草いきれ
息吐いて大暑の坂の十段目

一山に鳥ごゑ満つる墓参かな
墓拭ふほどに切なくなりけり
百合白きことのことさら師の墓前
雨粒の草に光れる魂迎
盆の雨見つづけて身のけぶらへり
齡とは梅雨の石階上がるとき
決心のいかほど水中花赤し